



荒川の横堤（撮影地：川島町出丸中郷）

## かわはく No.57

### CONTENTS

- 秋期企画展「ヒョウタン～水入れから楽器、さまざまに人を支えてきた植物～」開催報告 …2
- スロープ展示案内「荒川の堤防あれこれ」「自転車でたどる荒川」……………3
- かわはくまつり「かわはくハロウィンウィーク」開催報告……………4
- かわはく研究室より報告「土のてざわりを感じてみよう」「ミジンコを観察しよう」…5
- 報告：子供ひかりプロジェクトに参加しました……………6
- 夏期企画展関連イベント「電子顕微鏡で虫の観察」開催報告……………6
- シリーズ両生類の話「アズマヒキガエル」……………7
- 巡回展「土ってなんだろう？」を飯能市市民活動センターにて開催しました …7



開催報告

秋期企画展

# ヒョウタン

～水入れから楽器、さまざまに人の生活を支えてきた植物～

開催期間：2016年10月1日(土)～11月27日(日)

水は人の命に欠かせないもの。その水を汲み、飲むために、今のような便利なコップや水筒がなかった昔むかし、人はどのように水を運び飲んだのでしょうか。ヒョウタンは最も古い栽培植物のひとつと考えられ、はるか昔から水を汲み運ぶ容器としてはもちろん、様々に利用されてきました。今回の展示では、私たちの歴史・文化と深いかかわりをもつヒョウタンについて、湯浅ヒョウタンコレクションを中心に紹介しました。

ヒョウタンは1つの栽培種で高さ3cm程のマメヒョウタンから大きいものでは100Lも入るようなオオヒョウタンまで、大きさもまた形も実に多様です（展示のオオヒョウタンは90L容）。

ヒョウタンは加工もしやすく、実用的な用途だけでなく、装飾も施されます。芸術品としてのヒョウタンには見事なものがあります。



多様なヒョウタン

他に、埼玉県愛瓢会の方々の作品や、江戸時代に描かれた錦絵でヒョウタンの登場するもの、ヒョウタン(ヒサゴ)の名前のつく生きものの紹介、ヒョウタンの中や種のでき方を紹介する展示、絵本とおもちゃのコーナーの設置を行いました。

イベントとしては親子で体験する「ヒョウタンでマラカスづくり」「ヒョウタンに絵付けしよう」を行いました。マラカスはヒョウタンによって微妙に違う音がします。じっくり選んだマラカスに絵を描いて仕上げました。絵付けは子供がハロウィンカボチャに見立てたヒョウタン、大人はくびれのあるヒョウタンに絵付けして、いずれも楽しく作品づくりができました。

水入れ、水筒、穀物入れなど



帽子、仮面、茶器、パイプ、浮き、火薬入れなど

多様なヒョウタンについて、水入れなどの容器、さまざまな日常の道具、神事や儀式などに用いられる道具などを展示しました。



また講演会では今回の展示に特別協力いただいた、湯浅浩史先生（(一財)進化生物学研究所理事）に、世界のヒョウタンの魅力について非常に興味深いお話をいただきました。

今回のヒョウタン展を開催したことで、たくさんの方から問い合わせなどをいただき、ヒョウタンが多くの方を魅了していることを実感しました。さらに多くの方にヒョウタンのおもしろさに気づいていただけたなら幸いです。

(研究交流部 森圭子)



## スロープ展示のご案内

# 「荒川の堤防あれこれ」

開催期間：2016年10月4日(火)～2017年2月5日(日)

2016年10月4日(火)から、スロープ展「荒川の堤防あれこれ」を開催しています。

昔から洪水被害が多発した荒川流域には、現在場所によっては巨大な山のような立派な堤防が整備されています。一見するとどれも同じように見える堤防ですが、この堤防、どれも同じように見えても実は種類の異なる様々な堤防に分類することができます。

今展示では、荒川流域に見られるこの様々な堤防の紹介をしています。

紹介しているのは、荒川流域でしか見ることのできない「横堤」をはじめ、河川の合流部に築かれた「背割堤」、そして「霞堤」や「山付堤」等、普段その名前をあまり聞くことのない堤防も紹介しています。

また、社会の教科書や、木曾三川流域で有名な

「輪中」が荒川流域にもあることや、荒川第一調節池には変わった堤防が多数整備されていること、そして「荒川の堤防はどこから始まってどこでおわるのか」等、荒川の堤防に関して様々な側面からアプローチしています。

最後になりますが、当館で今展示をご覧になった後は、あわせて屋外展示施設「荒川大模型173」



荒川と入間川との間の背割堤  
(写真提供：豊高隆三氏)

をご見学ください。精密な地形模型である、荒川大模型173には今展示で紹介している堤防が忠実に再現されています。ぜひあわせてご覧ください。

(研究交流部 羽田 武朗)

## 「自転車でたどる荒川」

開催期間：2017年2月7日(火)～2017年6月18日(日) 終了予定

2017年2月7日(火)から、スロープ展「自転車でたどる荒川」を開催します。

広大な河川敷を有し、立派な堤防が整備された荒川には、様々な趣味を楽しむ方々が集まっています。河川敷のグラウンドでスポーツに汗を流す方や、ラジコン飛行機を飛ばす方、釣りを楽しむ方、あげれば切りがありません。

そして一般にスポーツバイクと呼ばれる自転車に乗って、サイクリング(ポタリング)を楽しんでいらっしゃる方も数多くいらっしゃいます。

これは荒川の堤防上を中心に整備された自転車専用道の影響も大きく、週末を中心に多くの人々で賑わっています。

私はこれまで荒川流域を中心に、「ウォーキング」をしながら荒川の歴史や特徴を学んできました。ウォーキングをしている途中、毎回とっていいほどサイクリングを楽しむ方と出会いました。今展示の出発点はまさにここで、荒川流域をウォーキングではなく「サイクリング」で巡れば、これまでと違った荒川の姿を知ることができるのではないかと考え、展示の準備を始めました

今展示は、展示担当者で私が、実際に荒川流域を自転車に乗って調査し、自転車から見える景色に隠れた荒川の歴史や、荒川の特徴を紹介する展

示となっています。「見方を変えれば、見え方が変わる」。今展示を通して、荒川の魅力をまた違った形で紹介できればと思います。



調査で使用した自転車と荒川水管橋

### 【謝辞】

展示担当者である私が自転車に関しては全くの素人のため、展示の準備から調査に至るまで、一緒にサイクリングに出掛けてくれた内田圭輔氏をはじめ、たくさんの方々の御協力をいただきました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

### 【お知らせ】

当スロープ展開催期間中に、自転車で当館に来館されたお客様には、次回以降来館の際に利用できる招待券をお渡しいたします。

※自転車の車種は問いません。

(研究交流部 羽田 武朗)



開催報告：かわはくまつり

## かわはくハロウィンウィーク

開催期間：2016年10月22日(土)～10月30日(日)

2016年10月22日(土)～10月30日(日)にかけて、かわはくハロウィンウィークを開催しました(イベントの中心は22日、23日、29日、30日の両週末の4日間)。

今年で3年目を迎えた、かわはくハロウィンイベント。展示室内の装飾や当館スタッフならびにマスコットキャラクターの仮装をはじめ、今年もかわはくをハロウィン一色に染め上げました。仮装して当館に来館していただいた方への来館者サービスも、昨年を引き続き実施しました。

実は今年のハロウィンイベント、スタッフの中で1つ大きな野望がありました。それは、「イベントとしてのお菓子の配布」です。お菓子の配布自体は、たいして難しいことでもないような気もしますが、当館は博物館である以上、館内での飲食は基本的には禁止されています。そのため、これまではお菓子の配布は、例えハロウィンイベントとはいえ実施してきませんでした。

しかし、「ハロウィン」＝「trick or treat」・「Happy Halloween」＝「お菓子がもらえる」というイメージは大きく、どうにか来館者の方にお菓子を配布することができるようにならないかと、今年は担当スタッフで相談を重ね、念願のお菓子配布を実現させました。

また、当館のおまつり系イベントでお馴染みの「スタンプラリー」も、新しい試みの下で実施してみました。これまでのスタンプラリーでは、スタンプを4つ程度集めると、景品と交換することができるスタイルで実施してきましたが、今回はより「ラリー」の要素を強くし、スタンプを4個集めると第一ステップ達成、そしてスタンプを10個集めると第二ステップを達成というように、スタンプラリーのゴールを2つ設定し、達成毎にそれぞれ景品と引き換えることができるようにしました(今年のハロウィンイベントでは、ぬり絵やおりがみ、仮装体験コーナー等、各イベントブースを回り、イベントに参加することによってスタンプを押すことができる場所や、館内に置かれた特別なカボチャを探し出すことによってスタンプを押すことができる場所等、様々なスタイルのチェックポイントを用意しました)。

初の試みとなった今回のスタンプラリー。スタッフの予想としては、「スタンプ10個達成者はそこまで多くないのでは?」と考えていたのです

が、実際にイベントを実施してみると、スタンプラリーに参加していただいた大多数の方が、スタンプを10個以上集めてくれ、かわはくハロウィンイベントを最後まで楽しんでいただけたようでした。

3年目を迎えたかわはくハロウィンイベント。開催初年度に比べ、3年間毎年開催してきたことで、3年目にしようやく、「だいぶかわはくらしさのあるイベントになってきたかな」という感じでした。

ハロウィンイベントだけではなく、他のイベントも含め、今後も来館者の皆様に1日楽しく学んでいただける場を提供し続けていければと考えています。今後のイベントも楽しみにお待ちしております。



今年のハロウィンイベントの様子



ハロウィン記念写真

今年も多くの方に仮装して来館していただきました。来年度もお待ちしております。

(研究交流部 羽田 武朗)

※上記写真は、掲載許可を得て、掲載しています。



## かわはく研究室 ～川・自然・歴史～より報告

かわはくでは去年度よりかわはく研究室を実施しています。学芸員から気軽に短い時間で専門の話などを聞くといい趣旨です。月に1回、概ね第三日曜日の開催です。気軽にのぞいてみてくださいね！

今年度これまでに実施したかわはく研究室より報告します！

### 土のてざわりを感じてみよう 9月18日（日）

最近、いや、人生の中で、じっくり土をさわってみたことがありますか？小さい時に泥だんごをつくったり、泥をこねてまごごとをしたりしたことがあるかもしれません。その土の感触はどうだったでしょうか？

かわはくのある寄居町は、田んぼや畑が風景の中にあり、土も自然と目にしていますが、道路や建物が多い場所では、土を目にすることも少ないかもしれません。土は陸の生きものには欠かせない存在なのですが、その土にじっくり触れる機会は少ないと思われます。そこで、かわはく研究室で、いくつかの土に触って、手ざわりや質感のちがいを感じてみる、という企画を試みました。土と一ことで言っても、土や、表面からの深さによってその手ざわりや色などがちがっています。

用意した土は田んぼの土、畑の土（黒い土と粘土っぽい土）、かわはくの林の下の土（表面と、下の方）の5つでした。参加者には、どこの土かを知らせずにさわってもらい、感想を聞いてみました。ねんどっぽい、さらっとしている、ざらざらしている、かたい、やわらかい、しっとりしている、など、土によるちがいを感じてもらい、どこの土か、なぜ違いがあるのか、などのお話をしました。田んぼの土は泥だんごを作るのによさそうで、中には何度も触りにきてくれる（さわりがよかったかな？）お子さんもいました。

地味で目立たないけど、本当は身近な存在の土のこと、これからもお伝えしていきます！

（研究交流部 森 圭子）

### ミジンコを観察しよう 10月16日（日）

筆者の専門はカエルなど両生類ですが、両生類と田んぼ小さな生きもの関係については大学で1年間研究をさせてもらったことがあります。かわはくで仕事をする事になり、その研究は途中で打ち切りになってしまいましたが、その経験をどこかで生かせる機会がないかと考えていました。今回「かわはく研究室」として、子どもたちにも田んぼをささえる小さな生きものに注目してもらうきっかけにと企画しました。

10月は各地で稲刈りが終わり、田んぼはひっそりとしている時期ではありますが、ちょっとした水たまりをよくのぞいてみると、小さなミジンコの仲間たちが泳ぎ回っているのを見かけることがあります。本当はカエルたちが盛んに鳴き、オタマジャクシが泳ぎ回るにぎやかな時期がいいのですが、秋でも十分観察ができます。

すくってきた水から、動き回る小さなミジンコの仲間を見つけ、それをスポイトですくって顕微

鏡で観察しました。今回はタマミジンコの仲間、ケンミジンコの仲間を見つけ、田んぼの話と併せて子どもたちに解説しました。普段あまり注目されない生きものである小さな生きものを、顕微鏡で拡大してじっくり観察することの面白さを体験してもらえたのではと考えます。



タマミジンコの仲間

（研究交流部 藤田宏之）

これからも、学芸員の得意分野をみなさんにお話ししていきます。裏表紙の案内もご覧ください！



報告

## こどもひかりプロジェクトに参加しました

今年の6月25・26日に、こどもひかりプロジェクトによるイベント「ミュージアムキッズ全国フェアin 仙台」が開催されました。このイベントは、東日本大震災で被災・影響を受けた子供たちのために、北海道から沖縄までのミュージアムが様々な趣向を凝らし、全て無料で実験ショーやワークショップを行いました。

当館は、ワークショップ「石に絵を描こう・ストーンペインティング」を実施しました。内容は、石がたくさん入ったプールや箱から好きな石を探して、ペンを使って好きな絵を描くものでした。石は、埼玉県荒川の砂岩、槻川の緑色岩、兵庫県加古川のチャートを用意しました。



6月25日のイベント会場の様子

当館スタッフ1人ということもあり、大学生のユーススタッフ3人にお手伝いいただき、2日間で約700個の石を使用。親子での参加が多く、幼児から大人まで楽しんでいただけました。参加された方の中には、飼い猫そっくりの石を見つけて絵を描いた方（写真参照）や、四角い石で立体的なバスを描いた方、他のワークショップで見えた昆虫や海の生き物を描いた方など、様々な石のアートが完成していました。



参加者の作品「猫のCOCO」

イベント会場には予想を上回る来場者が訪れ、たくさんの方に喜んでいただけていたようです。このような、こどもひかりプロジェクトのイベントは今後も行われますので、のぞいてみて下さい。

(研究交流部 高橋美織)

### 夏期企画展関連イベント 開催報告

## 電子顕微鏡で虫の観察

企画展示「あざやかないきものたち-構造色をもった生き物」の関連イベントとして8月6・7日に「電子顕微鏡で虫を観察する」を実施しました。構造色は肉眼では見えないような物の形によって引き起こされる現象です。そこで、目に見えないようなものを再現できる電子顕微鏡を利用してさまざまな虫を観察しました。

日立ハイテクノロジーズに卓上顕微鏡 Miniscope® TM3030の実演と操作の体験をお願いし（講師、寺田大平氏）、参加した方には撮影した画像を持ち帰ってもらえるようにCDROMを持ってきていただき、撮影データをお渡ししました。



事前に用意していたカやゾウムシ、チョウの翅、頭髪などを観察しました。大きな虫よりも小さな虫の方が体のつくりが細かく、観察していて面白かったです。

チョウの鱗粉が屋根瓦のように並んでいる様や、カのおスメスを見分けるための触角の観察では、触角の形の違いに納得していただくことができました。中には持ってきていただいたカブトムシの触角や爪の先などを観察し、喜んでおられる方もいました。

参加した方の感想は、「肉眼や顕微鏡を使っても見えないような細かい部分まで拡大されていくところが面白かった」「お父さんが仕事で使っているが、生きものは見たことがなかったので面白かった」などの答えもかえって来ました。電子顕微鏡そのものへの興味を持たれた方もいました。講師として操作実演をしてくださった寺田氏のお話もおもしろく、個人に当てた30分はあっという間に過ぎてしまいました。今後もこのようなイベントを実施してゆく予定ですので楽しみにお待ちください。

(研究交流部 石井克彦)



◆特集コラム◆  
シリーズ両生類の話

第2回

「アズマヒキガエル」

このシリーズ第2回はガマガエルの名でも知られるアズマヒキガエルを紹介します。

大型のカエルで、人家の庭から2千メートル級の山地まで様々な環境に適応し、埼玉県では東京に近い川口市などから、奥秩父の山地まで最も広域に分布している種です。住宅地では雨の日に道路へ出てきたり、神社の池で産卵していたり、登山道でもばったり出会うなど突然目の前に現れますが、その反面いざ探してもなかなか出会うのが難しい神出鬼没さは本種ならではの姿です。そして、カエルにしては動きが緩慢で、ジャンプが得意ではありません。のっそりと道路を横断していることも多く、車を止めて道の脇に移動させることもしばしばで、世話が焼けるカエルでもあります。

そのようなヒキガエルですが、写真を撮って記録する我々学芸員にとって、大変協力的？にふるまってくれます。ちょこちょこ動き回らないことでも有難いのですが、堂々としてカメラにも動じず、顔の向きや微妙に表情を変化させるその姿は、歌舞伎役者のようです。そして大きな身体は存在感もありとても大人しいので、子どもたちの自然

観察教材にも向いています。

しかしながら近年は急激に数を減らし、突然の出会いも稀になっています。産卵期は多くのカエルが産卵池に集合し、オスがメスをめぐって稲麻竹葎の「カエル合戦」となりますが、昼夜問わずの賑やかな産卵はすっかり見られなくなってしまいました。本来どこでも見られたカエルですが、減少の原因は特定できずに危機的な状況下に追いやられようとしています。カエル合戦を見かけましたら、ぜひかわはく担当者へご一報ください。



かわはく前の道路を横断していたアズマヒキガエル  
(研究交流部 藤田宏之)

国際土壌年記念巡回展  
「土ってなんだろう？」を飯能市市民活動センターで開催しました

2015年は国連の定めた「国際土壌年」でした。でも地球にとって、私たちにとって、とても大切な土のことを多くの人に伝えるには一年というのは短い時間。国際土壌科学連合は2015年から始まる10年を「国際土壌の10年」として、これからも土のことを広く啓発していく10年としています。

飯能市市民活動センターは今年で活動開始から5年ということで、記念事業として巡回展「土ってなんだろう？」を開催することになりました。期間は7月10日(土)～31日(日)で、主催が川の博物館と市民活動センター、共催が(一社)日本土壌肥料学会と日本ペドロロジー学会でした。昨年度巡回した「土ってなんだろう？」の内容で、一部資料は返却したものの、埼玉県の開催で、身近な土に興味をもってもらうため「県内の土」のコーナーを設け、山の土、かわはくの近くの土、平野部の耕作地の土コーナーを設けました。

期間中の23日には、ミニワークショップ付きの講演会を行い、60名を超える方々に参加いただきました。子供から大人までの参加だったので、お話の内容がお子さんにはちょっと難しかったかな？途中で「土の呼吸」実験のデモンストレーショ

ンをして、最後はミニワークショップで泥だんこの磨き方をお伝えして持ち帰っていただきました。

展示のアンケートから、“土について考える機会が持てずにいましたが、今回の展示で学べる事が多く…楽しい企画でした”“土の標本がおもしろかった”“土はきたないと最初は思っていたけれど、これを見て土のことがたくさんわかった！！”“もっと土のことが知りたい！”といった嬉しい感想もいただきました。これからも土のことをわかりやすく伝えていきたいと思ひます。



(研究交流部 森 圭子)

### 12月

12/23/金・祝～2017/1/15/日

平成28年度荒川図画コンクール展

内容：平成28年度荒川図画コンクール展に入賞した120点全ての作品を展示します。子どもたちのイキイキとした川の風景画をぜひご覧ください。

2/金～2017/1/15/日

かわはくイルミネーション

時間：夕暮れ～

内容：かわはくを素敵にライトアップします。

4/日

かわはくであそぼう・まなぼう

「土のつぶでアクセサリーづくり」

時間：13:30～15:30

費用：無料

内容：12月5日は世界土壌デーです。土のつぶを使ってアクセサリー作りをします。

10/土

かわはく体験教室「シラスの中のチリモンさがし」

時間：13:30～15:30

費用：100円（材料費）

定員：20人（申込順）☎

内容：シラスの中に入っているいろいろな生き物（エビ・カニなど）を調べます。

18/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～

「土のはたらきを知ろう！」

時間：13:30～15:30

場所：荒川情報局

定員：随時5～10名ほど

内容：土のはたらきについて学ぶ実験のデモンストレーションをしながらお話しします。



### 1月

8/日

かわはくであそぼう・まなぼう「お正月遊び」

時間：①10:00～12:00 ②13:00～15:00

費用：無料

内容：お正月の伝統あそびを体験できます。

15/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～

講演会：「治水・利水の歴史から見た荒川」

時間：13:30～15:30

場所：ふれあいホール

定員：80名ほど ☎

内容：荒川の治水・利水の歴史を、荒川を上流から下りながら紹介します。これから荒川のことを学びたい方向けです。

21/土

かわはく体験教室「冬の野鳥を観察しよう」

時間：13:30～15:30

費用：100円（保険料）

定員：20人（申込順）☎

内容：かわはくの近くで見られる、冬の野鳥を観察します。ハクチョウも見られるかも知れません。

29/日

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくで豆まき」

時間：①11:30 ②14:00（豆まきの時間・予定）

費用：無料

内容：ワークショップで折り紙を使って、豆まき用の柘（ます）や鬼のお面を作り、リバーホールなどで豆まきをします。

### 2月

2/18/土～5/7/日

平成28年度春期企画展

「荒川水系の生きもの・サイエンスアート展」

内容：動物・鳥・魚・昆虫・植物などの生きものを精密にかつぎいきと描いた原画を含むサイエンスアート展です。立体作品も展示します。

2/7/火～6/18/日

スロープ展「自転車でたどる荒川」

内容：多くのボタリストが行き交う荒川流域。彼らボタリストが見ている景色にひそむ、荒川の歴史・文化等を紹介します。

2/28/火～4/16/日

ミニパネル展示「石つこ賢さん、宮沢賢治と寄居」

18/土

かわはく体験教室「河原の石図鑑をつくろう」

時間：13:30～15:30

費用：200円（材料費）

定員：20人（申込順）☎

内容：かわせみ河原で石を集めて観察し、荒川のオリジナル石図鑑を作ります。

19/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～

「冬だけ昆虫のお話しと観察」

時間：①13:30～②14:20～③15:00～

場所：荒川情報局・屋外

定員：各回10名

内容：かわはく内で冬ごしをする昆虫をさがして観察します。スライドでのお話もあります。

### 3月

4/土

かわはく体験教室兼企画展関連イベント

「絵画教室」

時間：①11:00～ ②14:00～

費用：100円（材料費）

定員：各回10名程度（申込順）☎

内容：サイエンスアート画家の狼林先生を講師に招きます。アットホームな絵画教室です。

18/土

かわはく体験教室兼企画展関連イベント「絵画教室」

時間：①11:00～ ②14:00～

費用：100円（材料費）

定員：各回10名程度（申込順）☎

内容：サイエンスアート画家の佐藤忠雄先生を講師に招きます。アットホームな絵画教室です。

19/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～

兼ミニパネル展示関連イベント「荒川の石ころを観察しよう」

時間：13:30～15:30

場所：荒川情報局

定員：随時5～10名ほど

内容：顕微鏡などを使って石を観察します。

26/日

かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」

時間：13:30～15:30

費用：無料

内容：液体窒素を使った実験などを行います。



ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国  
埼玉県

2016年11月25日発行

